

手 洗 い と 手 術 参 加

1 当日までの準備

- (1) 手術患者の病態，検査・画像データ，予定術式を確認し，予習しておく。
- (2) 前日は，入浴，洗髪だけでなく，爪切りを行っておく。
- (3) 当日朝はしっかり朝食を摂る。

2 入室（手術室）

- (1) 十分な時間的余裕を持って手術室に入る。
- (2) 更衣室で学生用手術衣に着替える。（不要物品は持参しない。貴重品管理は各自の責任）
詳細は，「中央手術室への入退室について」を参照

3 手指消毒

(1) 準備

- ① 帽子，マスクを着用する。眼鏡を使用しない人は，必要に応じて防護用ゴーグルを着用する（出血量が多くなると予想される手術や緊急手術など）。
- ② 指輪は外す。

(2) 方法

- ① 素洗い（10秒）：手指から肘関節3横指上まで洗淨水で濡らす。
- ② 予備洗い（20秒）：手指から肘関節3横指上まで消毒液で揉み洗う。
洗淨：手指から肘関節3横指上まで洗淨水で洗い流す。
（以後，常に手が肘より高位となるように保ち，滴が肘方向に流れるようにする。）
- ③ ブラッシング（40秒）：（粗大垢がない場合は、ブラッシングを省略しても良い。）
滅菌ブラシ1個を取り出す。ブラシケース内を汚染しないように注意する。
ブラシを水で十分濡らし、爪の下の粗大垢を除去する。
*** ブラシは皮膚損傷の原因となり，細菌増殖による手術部位感染の発症率を高める危険性があるので，手指全体をブラッシングしない。**
洗淨：ブラシをシンクに落とし，両手から肘上まで洗淨水で洗い流す。
- ④ もみ洗い（1回目，80秒）：
手指から肘関節3横指上腕側まで，消毒薬をすり込むように揉み洗う。
洗淨：両手から肘上まで洗淨水で洗い流す。
- ⑤ もみ洗い（2回目，80秒）：
手指から肘関節まで（肘関節を越えない），消毒薬をすり込むように揉み洗う。
洗淨：両手から肘まで洗淨水で洗い流す。
- ⑥ 手拭き：
所定容器より滅菌済みペーパータオル2枚を取り出す。2枚を丸めて手掌，手背，指を拭う。1枚を左手に握り込む。他の1枚を伸展して左手関節上に掛ける。右手で両端を持ち，肘まで拭う。タオルを所定容器に捨てる。左手に握ったタオルを伸展する。右手関節に掛ける。左手で両端を持ち，肘まで拭う。タオルを捨てる。
（付）接触やタオルの戻りによる汚染に注意。
汚染した際は，揉み洗い（1回目）からやり直す。（ブラッシングは不要）

*** 手洗いの方法は各診療科・手術内容で異なる場合があります。指導医の指示に従って実施すること。**

(3) アルコール消毒

速乾性摩擦式消毒用アルコール 3～5ml を手掌にとり、両 手指、手掌、手背、手関節に十分に乾燥するまで擦り込む。

(付) 常に手・前腕を体幹から離して保持し、他と接して汚染することがないように注意する。

4 手術衣（ガウン）、手袋の着用

滅菌手術衣、及び手袋は、外面を一切汚染しないようにして着用する。

- (1) 滅菌容器、又は滅菌領域から看護師に取り出してもらい、受け取る。
 - (2) 手指以外で触れないように注意して広げる。(内面が外になるように畳んで滅菌してある。)
 - (3) 右肩ひも（薄黄色）を介助者に把持してもらい、右手を右袖口に深く挿入する。次に、左肩ひも（薄黄色）を介助者に把持してもらい、左手を袖口に深く挿入する。
 - (4) 介助者が両方の肩ひもを強く牽引するのに合わせ、両手をそで口から露出する。肩ひもを介助者に結んでもらう。
 - (5) 上体を前屈し、マスクのひもを浮かせて把持し、両手でひもを解き、両端を1本ずつ把持する。
 - (6) マスク上縁が鼻梁下部に位置するように、両手を左右に挙上し固定する。
 - (7) 介助者にひもを結んでもらう。
 - (8) 手のサイズに適した手袋の号数を選択する。
(サイズは5.5（小）から8.0（大）まで、標準は男7，女6.5，事前に確認しておくこと)
 - (9) 滅菌済み手袋の包みを内面に触れることなく開く。
 - (10) 右手で左手手袋(L)の折り返し**内面**（一部反転してある。）を把持して取り出し、外面に一切接触しないようにして左手にはめる。
 - (11) 次に、手袋を装着した左手を右手袋(R)の折り返しの**外面**に挿入して取り出し、右手に装着する。
 - (12) 両手（手袋外面）を用い、指先端まで手袋を確実に装着し、折り返しを戻して手術衣の布部分までまくり上げる。
 - (13) 手術衣の体部のひもを把持し、介助者に手伝ってもらって体周を廻し、前面で結ぶ。
- (注) 外面汚染を生じた場合、汚染を自覚、又は他覚された時は、速やかに手袋装着・術衣装着、又は手洗いをやり直す。

5 手術介助

手術機材、器具、手術衣は滅菌済みである。指導医の指示に従い、これまで学んだ基礎医学、臨床医学の全知識を駆使して、体験と学修に努める。